

# 平成 29 年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■自主研究 20	公益目的事業 19
主査名	大森宣暁 宇都宮大学大学院工学研究科球環境デザイン学専攻教授	
研究テーマ	夜の生活活動を支え生活の質を向上させる都市と交通のあり方に関する研究	
<b>研究の目的：</b> <p>本研究は、人口減少・少子高齢社会において、全ての人々が安全・安心・快適に夜間の自宅内外の生活活動に参加でき、生活の質を向上させる環境整備に向けて、我が国の社会的文化的特性を反映した都市と交通のあり方について、幅広い視点から検討を行うことを目的とする。</p>		
<b>研究の経過（4月～3月）：</b> <p>昨年度に実施した 15 大学の大学生の余暇活動と生活の質に関するアンケート調査データの分析を進めた。そして、アンケート調査に協力を頂いた対象大学の教員 4 名をゲストに迎えて議論を行うことで、各大学の学生生活や意識に関する具体的な特徴を整理するとともに、調査データの詳細な分析の方向性についての検討を行った。また、海外諸都市と我が国の飲酒環境の違い等について議論を行った。さらに、地方都市において衰退する歓楽街の活性化に関する研究の一環として、宇都宮市泉町・本町を対象に、自治会長や飲食街振興会会長等を交えて、衰退の経緯および活性化の可能性について意見交換を行った。その結果を踏まえて、泉町・本町を含む宇都宮市内 3 か所の歓楽街来訪者に対して、夜の飲酒活動の実態および泉町・本町に対する意識を把握するためのアンケート調査を実施した。</p>		
<b>研究の成果（自己評価含む）：</b> <p>大学生の余暇活動と生活の質に関するアンケート調査データの分析の結果、大都市の大学生の方が、余暇活動の満足度および主観的幸福感が高い傾向が明らかとなった。海外諸都市と我が国の飲酒環境の違い等についての議論を通して、我が国の特に大都市における公共交通の利便性の高さは、帰宅交通を含めた夜の飲酒活動の質の高さに貢献している可能性が高いことを確認した。また、宇都宮市内 3 か所の歓楽街来訪者に対するアンケート調査データの分析の結果、泉町・本町と他 2 か所との来訪者の個人特性や来訪理由の違い、泉町・本町に対するイメージ、街灯や交通規制の変更による来訪頻度増加の可能性等が明らかとなった。</p>		
<b>今後の課題：</b> <p>地方都市における衰退歓楽街については、今回の調査結果をもとに、地元関係者とともに今後目指す街の姿について議論を行った上で、歓楽街活性化の可能性について検討を行うことを課題とした。また、夜の都市や交通に関する海外・国内の文献・資料のレビューや関係者へのヒアリングをさらに進め、生活の質の向上という視点から夜の活動の意味や位置づけを探索していきたいと考えている。</p>		